

# 大原地区



小石川植物園入口

# 大原地区町会連合会

● 昭和41年1月結成

白山前町町会	原町町会
原町西町会	東御殿町会
白山御殿町睦会	上御殿町会
小石川五丁目互楽会	林町町会
林町南町会	丸山町会
氷川下町会	大原町会
宮下町会	西丸町会
駕籠町会	西原町会
一般社団法人大和郷会	

## ■ 歴代会長

初代	水上 孝正 (昭和41年1月～昭和41年4月)
二代	葛岡吉之助 (昭和41年5月～昭和48年3月)
三代	宮山 秀治 (昭和48年4月～平成8年5月)
四代	田上 秀夫 (平成8年5月～平成11年4月)
五代	本橋 徹哉 (平成11年5月～平成15年8月)
六代	小林 信男 (平成15年9月～平成19年4月)
七代	浅利 幹郎 (平成19年5月～平成23年11月)
八代	田上 侑司 (平成24年5月～)

## 地区町会連合会のあゆみ

大原地区は、文京区の北部に位置し、その範囲は、白山台地と小石川の谷地となる千川通りから旧白山通り（国道17号）にまで及び、最端部は豊島区に接している。

街並みは、文京区を代表する地場産業である印刷・製本関連の事業所が千川通り周辺に集積している一方、白山台地に位置するエリアでは閑静な住宅地が広がりを見せている。幹線道路に囲まれた内側は概ね低層な住宅で、戦災が比較的小規模だった地域には戦前の建物も一部残っている。近年は住宅の建替えが進んでおり、白山通りや不忍通りの沿道にはマンションが建ち並んでいる。

商店街が住宅地化する傾向にあるものの、白山上周辺や千石駅付近には小売店や飲食店が軒を連ね、人が多く行き交っている。

また、大原地区には、東洋大学や都立小石川中等教育学校（旧都立小石川高校）、私立高校など多くの教育機関があるほか、白山神社・簸川神社・巣鴨大鳥神社や、蜀山人の名で知られる大田南畝の墓がある本念寺など神社仏閣があることから、文化的な雰囲気をもつ街でもある。白山神社や



簸川神社例大祭

簸川神社の9月の祭礼と大鳥神社の11月の酉の市には大勢の人が集い、一年で一番の賑わいを見せる。

さらに、地区内には小石川植物園があり、緑豊かな都心のオアシスとして親しまれている。貞享元年（1684年）に徳川幕府が設けた小石川御薬園を前身とする日本で最も古い植物園で、一般にも公開されている。約16万1千㎡の敷地には数千種もの植物が栽培され、四季を通じて様々な花木を楽しむ



小石川植物園



むことができる。

大原地区町会連合会は、地区内にある17の町会によって昭和41年1月に結成され、半世紀近くが経過している。以来今日まで、地区全町会の共通事業遂行のために連携し、町会相互の親睦と福利増進を図ることを目的に様々な活動を行っている。

具体的には、奇数月に定例の町会長会議を開催して町会運営に有益な情報共有と地域の諸課題解決に向けて意見交換を行っている。また、9月の定例会は、文京区長も参加する宿泊研修会として開催し、地域自治発展に必要なテーマを取り上げて区政の課題等について理解を深めるとともに、町会長間の親睦を図っているところである。



宿泊研修会

さらに、当町会連合会では、青少年対策大原地区委員会との緊密な連携のもと、地域の幅広い住民を対象とした行事を催している。

まず、毎年7月末の日曜日に地区内の学校校庭で合同開催されるラジオ体操会は、毎年800人近い地域住民が早朝に各町会単位で町会旗を先頭に集合して参加する地域イベントの一つである。



合同ラジオ体操会

また、大原夏祭り夕涼みは、8月末の土曜日に開催される地域の大イベントで、露店は町会や学校PTAなどの地域団体が出店協力・運営をしている。1,500人規模の住民が親子で楽しめる夏祭りは、子どもたちにとって夏休みの思い出のひと時を彩ってくれる。



夏祭り

大原スポーツ祭りは10月体育の日に開かれ、パン食い競走や綱引き、三世代リレーなど熱い戦いが繰り広げられる。秋空の下で童心に返って老若男女が共に汗をかき、激戦あり笑いありの楽しい一日を過ごせる貴重な地域コミュニティ交流の場を提供している。



スポーツ祭り

そのほか、平成23年3月の東日本大震災を契機に、地域コミュニティや地域防災の充実が求められる中で、地域の「共助」の核としての活動についても理解に努めている。

最後に、町会連合会の活動拠点である大原地域活動センターが平成26年10月から千石公園隣りに移転する。これに伴い、当町会連合会も新たな場所において大原地区の更なる発展を目指して活動していくことになる。

## ■ 歴代会長

初代 塩野 光彦 (昭和29年4月～昭和33年3月)  
二代 田村 良知 (昭和33年4月～昭和36年3月)  
三代 押切 奥美 (昭和36年4月～昭和40年3月)  
四代 村上 藤吉 (昭和40年4月～昭和42年3月)  
五代 宮山 秀治 (昭和42年4月～平成8年3月)

六代 辻村 幸男 (平成8年4月～平成10年12月)  
七代 和田政五郎 (平成11年4月～平成12年7月)  
八代 浅利 幹朗 (平成12年8月～平成23年11月)  
九代 古沢 一男 (平成24年5月～)

## 町会のあゆみ

白山前町は、昔は小石川村に属した。元禄一二年町屋を開いた。町名は、白山神社の境内の前通りにあることから名づけられた。

白山神社は、天曆二年加賀の国一宮白山神社を旧本郷元町に祀ったのに始まるという。後、現在の小石川植物園の地に移ったが、明暦元年に白山御殿造営のため、現在地に移った。五代将軍綱吉とその生母桂昌院の信仰を受けて、小石川の鎮守として、大いに栄え門前町も発展した。

白山前町は、何事も神社から始まる。一月二日昇殿参拝を行い、新成人のお祝い配布、三月には餅つき大会、新入学児童のお

祝い、紫陽花祭り参加、夏休みラジオ体操、町会レクリエーション日帰りバス旅行、白山神社例大祭、敬老お祝い品配布、年末夜警、春秋は交通安全運動、全国地域安全運動、全国火災予防運動の参加と多岐にわたる行事を行っており、安全で、安心して、住みつけられる地域社会づくりに努めている。



白山前町町会レクリエーション マジックショウ 講師 三沢副会長



## ■ 歴代会長

初代 箕 正純（昭和28年7月～昭和40年）  
二代 藤巻 正栄（昭和40年～昭和48年3月）  
三代 吉田嘉和知（昭和48年4月～昭和57年3月）  
四代 藤本 勇人（昭和57年4月～昭和59年3月）

五代 鈴木 寛（昭和60年5月～平成元年3月）  
六代 吉村丹次郎（平成元年4月～平成10年3月）  
七代 小林 信男（平成10年4月～平成21年3月）  
八代 横山 勝彦（平成21年6月～）

## 町会のあゆみ

結成時の町会は「原町新和会」と称し、昭和31年より現在の原町町会と改称した。

昭和39年発行の「親和」創立10周年記念誌によると、この年原町町会は西町会と分離されたと記されている。

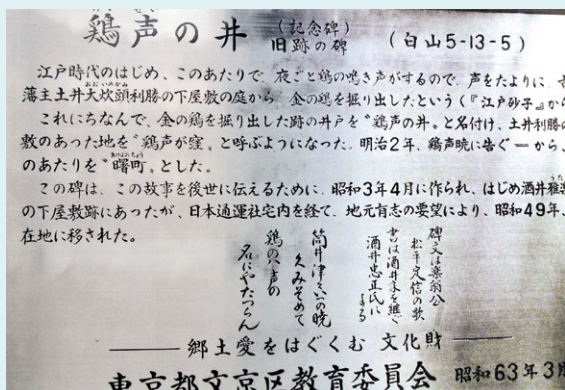
同誌からいくつか抜粋すると

- 歳末たすけ合い募金——昭和33年度から連続四年区内最高の募金を得た。
- 区民体育祭（小石川サッカー場にて）昭和35年第一回から連続十回総合優勝の輝かしい記録を樹立した。
- 東京タワー祭民謡大会（昭和34年7月）原町チームは優勝し東京代表として高知市に選手男女15名指導員付添人合わせて30名参加地元の人々と交流を重ねた。
- 同年町会夜警にて小石川消防署長より表彰された。当時の役員、指導者さらに町内青年会「鶏声会」約45名の並々ならぬ熱意と御努力に対し頭の下がる次第である。青年会中心の夜警は昭和32年12月から翌1月末迄、昭和37年度迄続けられた。

\*

平成22年8月29日（日）自助、共助と連携をテーマに東京都・文京区総合防災訓練が大規模に実施された。

当日は7時より13時迄開通以来、初めて



鶏声の井（跡碑）

白山通り（千石駅前→白山下）が全面交通止めとなり、警察、消防、自衛隊等出動へり等による救出活動を行い、当町会も大勢の住民が訓練に参加及び見学。住民同誌による倒壊建物からの救出救助、バケツリレー、また地元の東洋大学、京華学園でも展示、体験、実演などの訓練を行い、終了後は町会でハシゴ車、起震車、騎馬隊の馬にも試乗、充実した1日だった。その約半年後の23.3.11東日本大震災が起り、防災意識の高まりと共に各地で災害に備え訓練を行う様になる。

### 史跡 鶏声の井跡碑

区内には百数十を数える史跡、名所があるが我が町唯一の旧跡は鶏声の井記念碑である。現在は京華学園女子校の前に置かれており、社会教育課発行の「文京史跡めぐり」案内書に詳細記録されており、これを略記するとこの碑は昭和3年4月の建造で伯爵酒井忠正の書である。もとは幕末まで酒井雅楽頭下屋敷内で、明治以後酒井家の賃家であった場所にあった。昭和49年地元有志の要望で現在地に移設された。碑の表には楽翁公の松平定信の歌が刻まれている。

鶏声の井旧跡 白河楽翁公歌

筒井津々 いつの暁

久みそめて

鶏の八声の

名にやたつらん



## ■ 歴代会長

初代	浅井 玄哲 (昭和31年～)
二代	石町 忠雄 (昭和48年～)
三代	岩堀 信義 (昭和49年～)
四代	木谷 正司 (昭和50年～)
五代	渡辺 秀康 (平成4年～)
六代	野村 芳枝 (平成15年～)
七代	吉田 恒男 (平成19年～)
八代	田中 帖 (平成22年～)

## 町会のあゆみ

原町西町会は、昭和31年「原町親和会」より分離した。当町会の特色ある年間行事としては、納涼まつり、文化講座、防災教室、新1年生、敬老対象者への記念品の贈呈などがある。“みんなでつくろう わが町ふるさと”を合い言葉に、地域の発展を目指している。

納涼まつり—昭和50年より夏の風物行事として「納涼まつり」を毎年実施しており、100人余りのボランティアさんのお手伝いにより、町内の道路に、金魚すくい、ヨーヨー釣り、輪なげ、西瓜割り、かき氷、綿菓子、植木市、古本市など約20の模擬店を出店（無料）。又、消防団の協力での消防訓練、非常食の試食などを実施、現在では毎回会員800人以上が参加して好評を得

ている。

文化講座—毎回専門講師を招き、フラワーアレンジメント（プリザーブドフラワー）、臨床美術など、老若男女が腕を競っている。

防災教室—防災館での体験見学、救命講習、区防災危機管理室による講習会、警察署、消防署より講師を招いての講話研修などを通し地域の震災に備える意識の向上を目指している。



納涼まつり



# 東御殿町会

● 昭和24年4月結成

## ■ 歴代会長

初代	永井 熊吉	(昭和24年4月～昭和46年9月)
二代	輿石 静俊	(昭和46年10月～昭和52年8月)
三代	結城 祐昭	(昭和52年8月～平成7年4月)
四代	高柳 保雄	(平成8年5月～平成18年4月)
五代	萩原 久治	(平成18年5月～平成23年6月)
六代	横田 滋	(平成23年7月～)

## 町会のあゆみ

東御殿町は、植物園の入口辺りから、小石川消防署の先まで、千川通りと植物園に挟まれた地域です。

町会員は160世帯。

町内の活動は、新年会、春・秋の交通安全運動、夏休みのラジオ体操、納涼会、敬老のお祝い、秋の防犯活動、歳末の夜警など、さまざまな活動を行っておりますが、なんと言っても2年に1度の簸川例大祭は盛大です。

町内の役員を中心に、町会員が一丸となって行い、特に土曜日の宵宮では、簸川神社の階段を一気に担ぎ上げての宮入りは感動です。



歳末の夜警



簸川例大祭



## ■ 歴代会長

- 初代 梨本栄二郎（昭和31年4月～昭和40年3月）
- 二代 高橋常次郎（昭和40年4月～昭和43年3月）
- 三代 清水 富蔵（昭和43年4月～昭和46年9月）
- 四代 島川亀二郎（昭和46年10月～平成10年11月）
- 五代 鈴木 良雄（平成10年12月～平成21年3月）
- 六代 島川 健治（平成21年4月～）

## 町会のあゆみ

白山御殿町睦会は、昭和31年に結成を見て、古き昔からの地名をそのままに御殿町とした。由来は徳川五代将軍綱吉の別邸があったところで現在は小石川植物園となっている。その為、小石川植物園の周囲の町会は御殿という名前が多い。地域的に見れば小石川植物園に沿っての町会であり、春夏秋冬四季折々に植物園の草花が咲き、環境面では最適の町である。道行く人たちの羨望のところであり、自然と地域そのままが睦の和をかもし出して町を形成している。

人情的には下町気質なところが多く、お祭などの際は町全体が一体と

なって町会を盛り上げている。

また、犯罪も少なく、安全安心の町を保って町会の発展に寄与してまいりたいと思う。



町会旗



簸川例大祭



## ■ 歴代会長

- 初代 清水覚太郎（昭和24年7月～昭和25年3月）
- 二代 阿部 寅次（昭和25年4月～昭和30年3月）
- 三代 安岡 正篤（昭和30年4月～昭和35年3月）
- 四代 本多 重雄（昭和35年4月～昭和40年3月）
- 五代 岩井 恒一（昭和40年4月～昭和45年3月）
- 六代 鴨下 晃湖（昭和45年4月～昭和50年9月）
- 七代 澤田 稔（平成8年4月～平成10年3月）
- 八代 梅山 龍男（平成11年5月～）

## 会務代行

- 小川 賢一（昭和43年～昭和48年）
- 馬杉 春子（昭和48年～昭和59年）
- 澤田 稔（昭和59年10月～平成8年3月）
- 梅山 龍男（平成10年3月～平成11年5月）

## 町会のあゆみ

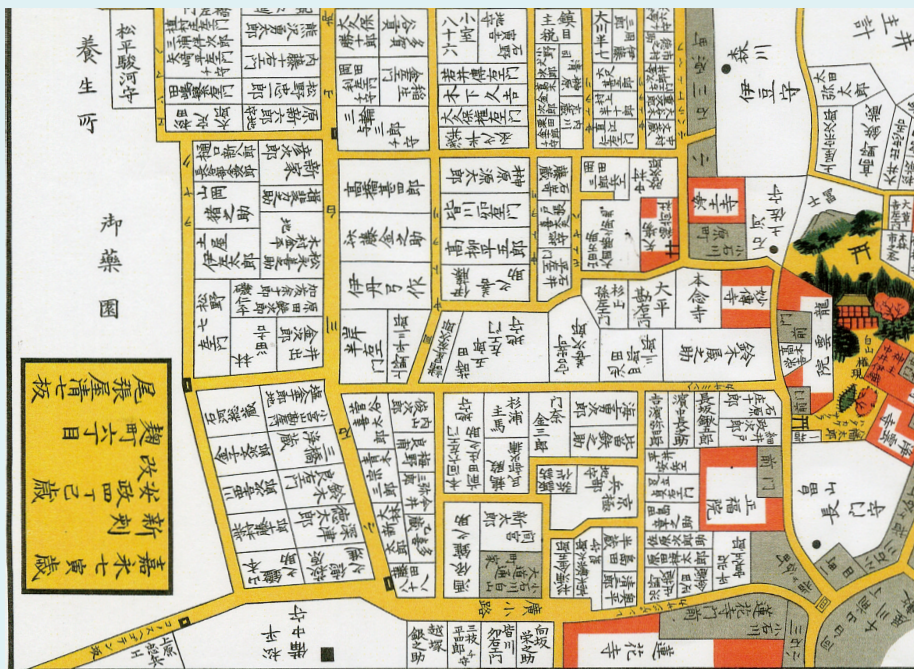
上御殿町会は、戦後に、白山御殿町から分かれて結成された町会の一つです。当初は「上御殿自治会」と称していましたが、平成11年5月から現在の町会名に改称しました。

小石川植物園を含む一帯に、かつて将軍になる前の徳川綱吉の屋敷である白山御殿があったことから御殿の名が残っています。町会は、植物園東側の御殿坂を上った白山台と白山通りに通じる蓮華寺坂（蓮花寺坂）から、逸見坂を挟んで浄土寺までの

地域に位置しています。町の区画は江戸末期の古地図と基本は変わっていません。

現在の住居表示は白山4丁目となっており、約670世帯の方々が居住する静かな住宅街です。

町会では、白山神社の祭礼のほか、植物園内にある小石川養生所の井戸を使わせてもらって毎年、防災訓練を行うなどの活動をしています。また、月3回、町会内だけでなく、区内で広く青色防犯パトロールを実施し、地域の安心・安全に寄与しています。



『東都駒込辺絵図（1857年）』（現在の上御殿町会付近）

# 小石川五丁目互楽会

● 昭和36年結成

## ■ 歴代会長

初代 矢嶋 明治（昭和36年～昭和40年）  
二代 土屋 義治（昭和41年～昭和44年）  
三代 澤 末吉（昭和45年）  
四代 益川 昇（昭和46年～平成2年）

五代 青木 宏之（平成3年）  
六代 三橋 久（平成4年～平成8年）  
七代 菊地 耕造（平成9年～平成12年）  
八代 三橋 久（平成13年～）

## 町会のあゆみ

結成時の町会名は「白山御殿町互楽会」と称し、昭和41年新住居表示の実施により、白山御殿町から小石川五丁目となり、現在の町会名に改称した。世帯数は80余のこじんまりとした町会ではあるが連絡や周知をはじめ町会の運営は緊密、円滑に行われていると自負している。主な行事は、定期総会、日帰り旅行、夜警と、1年おきの簸川神社の本祭りでは町会員が一団となって取り組んで町内の親睦に意を用いているのが我が町会である。



夜警風景



簸川神社の祭礼風景



## ■ 歴代会長

初代 水上 孝正（昭和30年1月～昭和43年3月）  
二代 伊村栄太郎（昭和43年4月～昭和50年3月）  
三代 小宮 次郎（昭和50年4月～昭和52年3月）  
四代 高橋 一郎（昭和52年4月～昭和55年3月）

五代 田上 秀夫（昭和55年4月～平成11年3月）  
六代 林 宏（平成11年4月～平成15年3月）  
七代 田上 侑司（平成15年4月～）

## 町会のあゆみ

林町町会は大正初期頃より「協林会」と発足し、其の後数年にして「林町町会」と改称させられたようです。東西南北に分かれていたが、戦後、昭和22年3月アメリカ占領政策で町会が廃止され解散の運命にありました。平和復興後、自然の勢いで復し倍旧の勢いで盛り上がり昭和30年1月23日再発足せられ今日に至って居ります。（南町会は昭和27年独立）

昭和30年1月 再発足  
昭和48年7月 創立20周年記念事業として、町会事務所（民家）購入  
昭和54年3月 「町会だより」創刊  
昭和54年4月 創立30周年記念事業として、事務所増築、全世帯に記念品配る  
昭和54年9月 祭礼用大神輿新調する  
昭和55年3月 伊豆大島、宮城沖地震多発に備えのため、防災組織を作る  
平成7年9月 創立40周年事業として、祭礼用品小神輿、山車等を修復する  
平成17年3月 創立50周年式典、上野東天紅にて挙げる。町会名簿を改編、祭礼用

品獅子頭の修復する  
平成19年7月 町会事務所出入口通路土地購入する  
平成19年12月 自治法地縁団体として申請、認可される  
平成20年3月 町会所有の事務所（家屋、土地、出入口道路）を「林町町会」名称で登記する

### 町会行事

4月 小、中学生新一年生祝品贈呈、総会、交通安全運動  
5月 新旧役員会、各団体総会、募金  
7月 ラジオ体操、大原地区合同ラジオ体操会  
9月 簸川神社例大祭、交通安全運動  
10月 敬老会、募金  
11月 日帰りレクリエーション  
12月 年末警戒夜廻り、募金  
1月 新年会  
2月 もちつき大会、防災コンクール  
「町会だより」毎月発行 集団リサイクル回収毎月第3月曜日 役員会年6回



平成24年度 簸川神社例大祭 林町町会



平成24年度 林町町会 敬老会

## ■ 歴代会長

初代 是松 敏麿 (昭和27年～昭和40年)  
二代 梁取清太郎 (昭和41年～昭和50年)  
三代 関 貞雄 (昭和51年～昭和58年)  
四代 関根 官助 (昭和59年～昭和62年)  
五代 是松 敏久 (昭和63年～平成8年)

六代 桑原 久男 (平成9年～平成10年)  
七代 小野 辰己 (平成10年～平成16年)  
八代 齋藤 茂 (平成17年～平成24年)  
九代 岩瀬 幸英 (平成25年～)

## 町会のおゆみ

### はじめに

林町南町会は終戦後の占領政策のもと、昭和25年初期に入り睦会として福祉関係の団体として、設立が容認されるようになったことを機に昭和27年7月第1回創立記念総会が開催され、会名も白山御殿町の一部と林町の南側が一緒になり、南睦会と決定し発足しました。

昭和29年11月には創立3周年記念を明化小学校講堂を借用し敬老会を開催。昭和30年3月に団体名を林町南町会と改編し現在に至っております。

発足当時の会長、役員、町会員皆様の喜びは戦後の混乱期を乗り越える為の大きな役割を果たしたことに違いありません。

平成12年10月、創立50周年記念品の配布。

平成24年10月21日(日)快晴のもと、文京区立第十中学校体育館を借用、成澤文京区長をはじめ、小谷周一校長等、多数のご来賓の参加をいただきまして盛大に町会創立60周年の節目の行事を無事に終了することができました。

60周年、人間で言えば「還暦」のお祝いです。生まれた時に還り、第二の出発点という意味で、赤い物を身に着けて、お祝いします。町会も発足させた時の思いに還らせて頂き、生まれ変わり発展をさせて林

町南町会が連綿とつづくことを望みます。

皆さんの記憶にも未だに残る「東日本大震災」「原発の問題」と想定外という言葉・・・被害に遭った人たちだけではなく、日本人のたちが「家族の絆」「地域の絆」「絆」と言う言葉と日本人の道德心のすごさを世界中の人達に認識され再発見したと思います。

### おわりに

林町南町会は60周年記念誌「つながる」を発刊しました。その想いは、広義的には「世界につながるように」、狭義的には一人一人が家族に、世代に、地域、町、公共団体、役所に良いことの方へすべてつながる。

結果として、町会で、家族で、世代間で「すき」がなく、自助努力、共助とのつながりが発揮され、暮らしやすい町会になりますよう願います。



9月 防災訓練



12月 親睦バス旅行



簗川神社お祭り 子どもみこし



## ■ 歴代会長

初代 葛岡 吉之助（昭和29年11月～昭和52年5月）  
二代 益子 恒義（昭和52年5月～昭和60年3月）  
三代 山中 正義（昭和60年3月～昭和62年8月）  
四代 近藤 釧三（昭和62年8月～平成8年5月）

五代 笹山 小枝子（平成8年5月～平成13年5月）  
六代 平井 忠夫（平成13年5月～平成17年5月）  
七代 高野 譲體（平成17年5月～平成21年5月）  
八代 小野寺 加代子（平成21年5月～）

## 町会のあゆみ

### 1) 30年前から継続されている町会行事

防災訓練、防災コンクール参加。年末特別警戒〈夜廻り〉。春、秋の交通安全週間の街頭活動。夏休みのラジオ体操。簸川神社お祭り。春、秋のバスハイク。餅つき大会。新入学児童へのお祝い〈傘〉配り。敬老のお祝い配り。各種募金活動。総会。新年会。

### 2) 30年間に変遷のあった事業

殺鼠剤、殺虫剤の配布：平成10年頃まで。

リサイクル事業：平成2年12月から、婦人部により古紙・アルミ缶回収事業を始める。一時中断したが平成23年再開。

納涼盆踊り：昭和30年代から続いてきた盆踊り（昭和63年から大原・林・丸山の3町会合同納涼踊り大会）は平成13年8月で踊り手不足で終了。

スポーツ祭り：町会運動会は“スポーツ祭り”と名前を変え、平成14年からは3町会合同スポーツ祭り、さらに大原地区対スポーツまつりとなる。

### 3) 新しく始まった事

町会事務所開設：平成18年4月“喫茶レイク”後を賃貸で借りて新たに開設。

町会広報誌の発行：昭和63年11月、“丸山町会だより”創刊号が発行された。年4回発行を目標に現在71号が発行されている。

大神輿の修理：町会や近隣の皆さま600人以上のご寄付で改修が行われ、平成22年9月コーシャハイム千石の集会所で簸川神社の宮司により、“神輿改修清祓いの儀”が行われた（写真1）。

平成24年簸川神社大祭の宮入りの神輿（写真2）。

社協ふれあい“いきいきのサロン”の支援：せんごくサロン（平成19年3月開設）、ツチノコ広場（平成23年4月開設）の活動を支援。



写真1：神輿改修清祓いの儀（H23.9.5）



写真2：簸川神社大祭宮入り（H24.9.8）

# 氷川下町会

## ■ 歴代会長

初代 太田宣次郎  
二代 古谷 精一  
三代 篠原 徳七  
四代 春日 政男  
五代 清水 正作  
六代 源田多喜次

七代 春日 武  
八代 有賀 長治  
九代 田中 昭吉  
十代 本橋 徹哉  
十一代 遠藤 近甫  
十二代 市橋 弘司（平成19年5月～）

## 町会のあゆみ

旧氷川下町は、その昔小石川村の内にあった。永禄年間（1558～1580）北条氏の家臣島津孫四郎の土地及び法林院領であった。

江戸時代に入って新田を開き享保年中（1726～1736）に千川沿いを中心に開墾して「氷川たんぼ」と称した。

明治24年、簸川神社のある台地の下の低地にあったので、その場所を氷川下町と名づけられた。この低地を流れる千川沿いに「氷川たんぼ」と「播磨たんぼ」があり、明治末期頃までは、花々が咲き清流には魚影も多く見受けられた。

しかし、こうした素朴な田園風景は長くは続かなかった。

明治の中頃になると川沿いには製紙屋、染工場が立地し人口が急増してきた。明治29年には、共同印刷の前身である博進社印刷工場が千川沿いの播磨たんぼの真中に進出し、印刷製本の街へと変貌していった。その後、ますます人口は増大し下水道の不備で千川は毎回何回かの出水にみまわれた。そこで、昭和5年11月根本的な治水改修工事が開始され、水流をコンクリートの暗渠にし、昭和9年7月に工事は竣工した。それが現在の千川通りの礎である。

旧氷川下町の地域には、「交和会」と「親

友会」の2つの住民組織の団体があり大正15年5月この2つの会が統合され歴史ある氷川下町会の誕生となった。昭和42年1月より現在の住居表示により氷川下町会の名称は廃止され、千石二丁目、三丁目、大塚三丁目、四丁目の一部に変更されたことは御存知の通りであります。

当町会として年間を通じて防火防災、防犯、交通安全、青少年の健全育成、レクリエーション、公害対策、敬老の日、会員の慶弔及び祭礼等の各種事業を、及び町会青年会を中心としてラジオ体操会、ちびっ子縁日、夜警（12月1日～1月末日迄の2ヶ月間）等々の事業を遂行すると共に、会員相互の親懇と町内の安全安心の街づくりに尽力しています。



町会旗



# 大原町会

● 昭和29年4月結成

## ■ 歴代会長

初代 曾羅 忠義 (昭和29年4月～昭和40年3月)  
二代 竹澤幾太郎 (昭和40年4月～昭和43年10月)  
三代 武藤 常三 (昭和44年4月～昭和61年10月)  
四代 中島 勝次 (昭和62年4月～平成3年10月)

五代 高久 三郎 (平成3年11月～平成9年3月)  
六代 今井 正雄 (平成9年4月～平成15年3月)  
七代 平野今朝人 (平成15年4月～平成26年4月)  
八代 竹澤 一乗 (平成26年5月～)

## 町会のあゆみ

当町会は大原地域活動センターのお膝元の名前とは違い90世帯に満たない小さな町会です。

防犯、交通安全、防火防災など各種協会に加盟し、交通安全週間には旗振りを、年末は夜警をして、町内の安全に務める傍ら、1年を通して第1、第3土曜日には廃品回収を行っています。

また会員の親睦のため新年会、お祭り、敬老会などを行っています。「敬老会」は新たに古希を迎えた方をお祝いし高齢化社会になった今でも70歳以上が集まりお祝いをしています。

### 都の「地域の底力再生助成事業」

20年度には当時まだ珍しい助成金を使い、青年部の音頭で「餅つき大会」を開催し町会の枠を越えて盛大に行われ、近隣の方々にも喜ばれました。

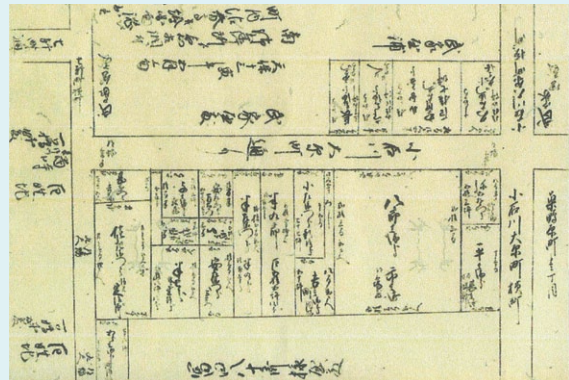
またメイン道路で開催される大原地区対の夕涼み会には毎年出店させて頂いております。



都の助成事業による餅つき大会

### 「町名の由来」

江戸時代からの旧家（伊勢五）に保存されていた資料によれば「小石川村のお百姓の持ち物であった広大な草原に」町屋敷が出来た事により（小石川大原町）「大原町」の名前が生まれたと思われます。



大原の名前が付いた頃の屋敷図



現在のメイン通り（小石川大原町通り）



## ■ 歴代会長

初代 高橋阿久利（昭和29年9月～昭和31年3月）  
二代 安藤 藤助（昭和31年4月～昭和32年3月）  
三代 寺井 豊蔵（昭和32年4月～昭和38年3月）  
四代 土橋 金笈（昭和38年4月～昭和43年3月）  
五代 松崎 平治（昭和43年4月～昭和45年3月）  
六代 高橋 昇一（昭和45年4月～昭和46年3月）

七代 横堀 健吉（昭和46年4月～昭和55年3月）  
八代 高橋 秀郎（昭和55年4月～昭和59年3月）  
九代 栗林 宏（昭和59年4月～平成6年3月）  
十代 星 原二（平成6年4月～平成8年3月）  
十一代 三好 和男（平成8年4月～平成18年3月）  
十二代 鶴田 厚昭（平成18年4月～）

## 町会のあゆみ

現在、宮下町会のある町は、古くは伝通院領で、今の簸川神社の下に町屋が開かれ、植物園西隣にあった承応元年館林藩主（徳川五代将軍綱吉）の白山御殿用地に召し上げられ、その代地として巢鴨村の一部、現在地に移ったが、お宮の下にあったので宮下町と名付けられた。江戸時代には武家屋敷と五軒町及び宮下町との三者の構成であったが、それが明治になり市区制が施行された際、町名を「宮下町」と呼称するようになった。

大正時代になって、だんだんと居住者が増えてきたので、どうしても町ぐるみの地域的組織が必要となっていき、町内の主だった有志の方々のお骨折りで、大正10年に「交親会」という名の町会が創立された。従って大正12年の関東大震災に際しては、この「交親会」の活動によって、震

災災害処理が迅速かつ円滑に遂行された。交親会時代の町会長は、初代 高橋 甚右工門氏、二代目 高橋 阿久利氏、三代目 矢部 滝蔵氏、四代目 三輪 新一氏であった。その後、昭和20年、第2次世界大戦後、町会の人々も落ち着きを取り戻し、町の大部分の区画整理も大方整ったため、町会の前身である交親会の後を受けて、昭和29年9月10日に、現在の宮下町会が創立されたのである。

平成の現在では、町会活動も多様化しており、簸川神社の祭礼はもとより、地域の安心、安全のための活動、（地域安全パトロール、年末特別警戒等）青少年の健全育成（宮下公園を利用した町会運動会、レクリエーション等）を実施し、会員相互の親睦と融和を積極的に図っている。



簸川神社例大祭の風景



## ■ 歴代会長

初代 鈴木長太郎（昭和28年8月～昭和38年1月）  
二代 本田 元吉（昭和32年1月～昭和37年5月）  
三代 名取 義信（昭和37年5月～昭和61年3月）  
四代 木内 秀（昭和61年4月～平成4年3月）

五代 星野 昭二（平成4年4月～平成4年10月）  
六代 仁藤 馨一（平成5年4月～平成16年3月）  
七代 中村 昭治（平成16年4月～平成22年3月）  
当代 佐藤 勉（平成22年4月～）

## 町会のあゆみ

第二次大戦後の焼野原より復興が徐々に始まった昭和23年に現町会の前身「西和会」が発足し町内連帯の活動が始まり祭典の太鼓や祭典用具を新調した。

昭和28年8月 「西丸町会」が発足会を経て結成。

昭和28年12月 大神輿を新調

昭和31年12月 小神輿の寄贈を受ける

昭和32年7月 町会婦人部発足

昭和42年 西丸町会は千石1丁目と千石4丁目になるが町会名は「西丸町会」を継続

昭和45年 千石4丁目に児童遊園地開園

昭和46年 西丸町会館完成

平成10年 初の町会海外旅行（グアム）

平成17年～18年 中神輿を修復し大神輿に改造、小神輿を新調

平成18年 西丸町会の法人化完了

平成24年8月 町会結成60周年

## 現在の主たる町会行事

防犯パトロール、防災訓練、新年会、総会、ラジオ体操、祭典、町会旅行、レクリエーション、赤十字奉仕、社会福祉の協力、新入学、成人、敬老の御祝、役員定例会（毎月9日）、他



町内旅行より 万博の帰途 浜名湖にて（平成8年7月）



町内巡行中の祭りの一コマ（平成18年9月）



防犯パトロール出発時 西丸町会館前にて（平成22年12月）

# 駕籠町会

● 昭和27年1月結成

## ■ 歴代会長

初代 石田 寅雄（昭和27年1月～昭和27年3月）  
二代 下竹安右衛門（昭和27年4月～昭和35年3月）  
三代 岩本平左衛門（昭和35年4月～昭和36年3月）  
四代 中島雄次郎（昭和36年4月～昭和41年9月）  
五代 下竹安右衛門（昭和41年10月～昭和42年7月）  
六代 口岩 久松（昭和42年7月～昭和46年4月）  
七代 佐藤銀次郎（昭和46年4月～昭和48年3月）  
八代 五十嵐忠三（昭和48年4月～昭和50年3月）

九代 渡邊 浩（昭和50年4月～平成2年6月）  
十代 矢崎 周次（平成2年6月～平成4年3月）  
十一代 相澤 昭一（平成4年4月～平成8年3月）  
十二代 矢崎 花子（平成8年4月～平成14年3月）  
十三代 山岡 義治（平成14年4月～平成18年3月）  
十四代 五十嵐義雄（平成18年4月～平成24年3月）  
十五代 金子 敏雄（平成24年4月～）

## 町会のあゆみ

わたしたちの街「駕籠町」は先達たちの残してくれた名実ともに「ふるさと」である。現役員の下、恒例のお楽しみ広場（フリーマーケット）、夏休みラジオ体操会、プール一般開放、簸川神社例大祭、敬老祝賀などのさまざまな行事や、夜警の実施等、町内一丸となって自慢のできる町「駕籠町」を作ろうと頑張っている。

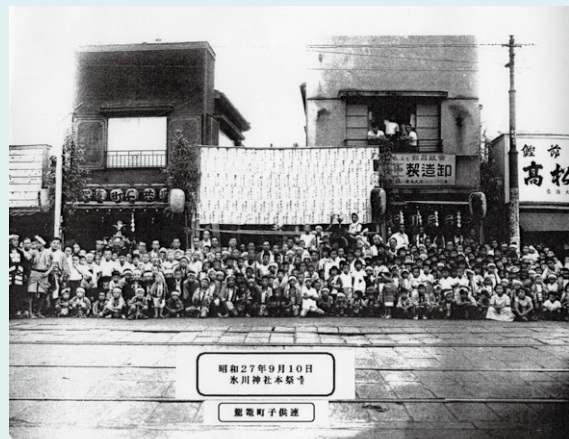
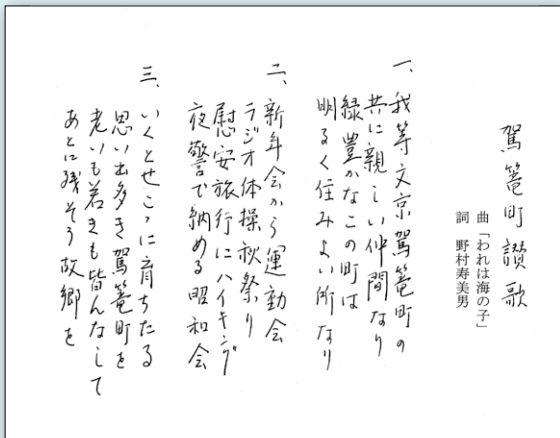
思い起こせば昭和50年代、この「駕籠町」に生まれ育った2世、3世の有志が集まり、自主的に火の用心の夜回りを始めたのがきっかけとなり、昭和54年、会員数20余名の「駕籠町昭和会」を結成した。簸川神社例大祭の手伝いをはじめ、特に子供を中心とした文化活動を率先して行い、町内会

から一目置かれるようになる。

時代の移り行く中で、昭和会員は町会役員に移行。「駕籠町昭和会」も発展的解散をし、平成20年には青年部が発足。若い人たちによって新しい「駕籠町」を目指しつつある。

今ではお楽しみ広場、簸川神社の例大祭は、「駕籠町」の賑々しい雰囲気の大イベントとなっている。

この「駕籠町」の名も、昭和41年の住居表示の実施により公的には文京区立駕籠町小学校、駕籠町公園、駕籠町会館などに名を留めるのみになったが、町会名としては今も「駕籠町」を継承している。



昭和27年9月10日 簸川神社本祭 駕籠町子供連



## ■ 歴代会長

初代 武藤徳次郎（昭和33年4月～昭和34年3月）  
二代 伊藤 秀信（昭和34年4月～昭和42年3月）  
三代 村越 富雄（昭和42年4月～昭和47年3月）  
四代 関田 虎治（昭和47年4月～昭和57年3月）  
五代 宮本 清（昭和57年4月～昭和59年3月）  
六代 北岡 馨（昭和59年4月～昭和60年3月）

七代 吉田福太郎（昭和60年4月～昭和61年3月）  
八代 中澤 健一（昭和61年4月～昭和62年3月）  
九代 小川 常吉（昭和62年4月～平成9年3月）  
十代 小暮 幸次（平成9年4月～平成22年3月）  
十一代 寺井常太郎（平成22年4月～）

## 町会のあゆみ

昭和22年6月、戦後のマッカーサー指令により解散させられていた旧西丸町、旧駕籠町、旧西原町の3町会が合同し、各町会の頭文字を取ったNKN児童文化会が設立されました。その後の人口増加に伴い3町会がそれぞれ分離独立、西原町会は町会規約案を作成し、昭和33年4月1日に再び活動を開始しました。

昭和57年には防災組織規定を制定し、現在も町会長を隊長、町会理事を隊員とした防災隊を組織して、火災や大震災等の非常事態に備えています。

旧町名である西原町の範囲は現在の千石4丁目の一部、約200メートル四方の地域で、中心には面積110坪程の西原町児童遊園があります。この公園の土地は昭和18年3月に斎藤政徳氏から西原町に寄贈されたのですが、前記3町会と文京区を交えての協議の結果、昭和42年に文京区の資産となりました。



ラジオ体操（西原町児童遊園）

町会会員数は約280、毎月1回理事会を開催して行事の立案等を行っています。

理事による活動は、毎月2回の防犯パトロールと古紙リサイクル、春と秋の交通安全運動、歳末と春の夜警、日本赤十字等から協力依頼のある募金の取りまとめ、警察署や消防署で開催される会議への参加等。

また文京区と小石川消防署共催の防災コンクールにも連続して参加しています。

ささやかではありますが、新小中学生には入学祝いを、高齢者の方には敬老祝いの品物を贈っています。

町会員に参加していただく年間行事には年度初めに開催する定期総会、地域の氏神である簸川神社の祭礼、祭礼の夜に西原町児童遊園で行われる盆踊り、ラジオ体操、小石川消防署のご指導による防災訓練、大型観光バスを利用して行うレクリエーション等があります。いくつかの行事は西原婦人会と協力し合っています。



レクリエーション（勝沼ぶどう狩り）

## ■ 歴代会長

十三代 佐川 直躬（昭和30年4月～昭和31年3月）  
十四代 平岡 伝章（昭和31年4月～昭和32年3月）  
十五代 岡 得太郎（昭和32年4月～昭和36年3月）  
十六代 菊井 維大（昭和36年4月～昭和38年3月）  
十七代 飯盛 里安（昭和38年4月～昭和40年3月）  
十八代 岡 得太郎（昭和40年4月～昭和52年12月）  
十九代 荒井 翁吉（昭和53年1月～昭和54年8月）  
二十代 田島 宏一（昭和53年9月～昭和57年5月）

二十一代 伊東 信（昭和57年6月～昭和60年5月）  
二十二代 米元 卓介（昭和60年6月～平成元年6月）  
二十三代 高木 外夫（平成元年6月～平成4年5月）  
二十四代 磯野 龍正（平成4年6月～平成5年5月）  
二十五代 富澤準二郎（平成5年6月～平成9年10月）  
二十六代 由井 直人（平成10年4月～平成13年3月）  
二十七代 小林陽太郎（平成13年6月～平成25年5月）  
二十八代 田口 邦臣（平成25年5月～）

## 町会のあゆみ

本駒込6丁目地区の大部分を占める町会としての「大和郷」は、大正14年に社団法人大和郷会として発足しました。

大和郷会の活動の特色は、いわゆる町会としての役割を超えて、会員福利の増進のための施設の運営、防火・防災は勿論、広く教養、趣味、社会生活の向上に資する教室、講座、講演会開催等のいろいろな生涯学習事業を行っていることにあります。

具体的には、文化部ではコーラス、コントラクトブリッジ、自然観察会、スポーツ部ではゴルフ、ダンス、ハイキングなどのサークルがあって、それぞれ活動しています。

また、これらの活動とは別に、大和郷会として幼稚園を昭和4年に設立し、空襲により園舎が焼失した一時期を除き80有余年にわたって運営してきました。ご幼少の折、現皇后陛下も在園されましたが、現在までに6,130名の卒園生を送り出して

います。幼稚園は平成7年4月、学校法人大和郷学園として大和郷会の事業から分離され、現在、独立した学校法人となっています。

昨今、公益法人の制度改革が報じられていますが、大和郷会は平成25年4月から、一般社団法人として新たなスタートを切ることになりました。大和郷会誕生の原点ともいべき会員相互の共存共助の精神に則り、地域、地縁に由来する共益的な団体として、良好な住環境を維持しつつ、安全で住みよい街づくりを目指しています。



大和郷会事務所と大和郷幼稚園